



川辺町小学校 将来構想について



将来構想策定を進めるのは

①少子化が加速しています(国)

人口	2015年(H27)	12,700万人
	2050年(H62)	9,700万人

年少人口(0~14才)

	1980年(S55)	2,700万人
	2015年(H27)	1,605万人(12.6%)
	2046年(H58)	1,000万人

将来構想策定を進めるのは

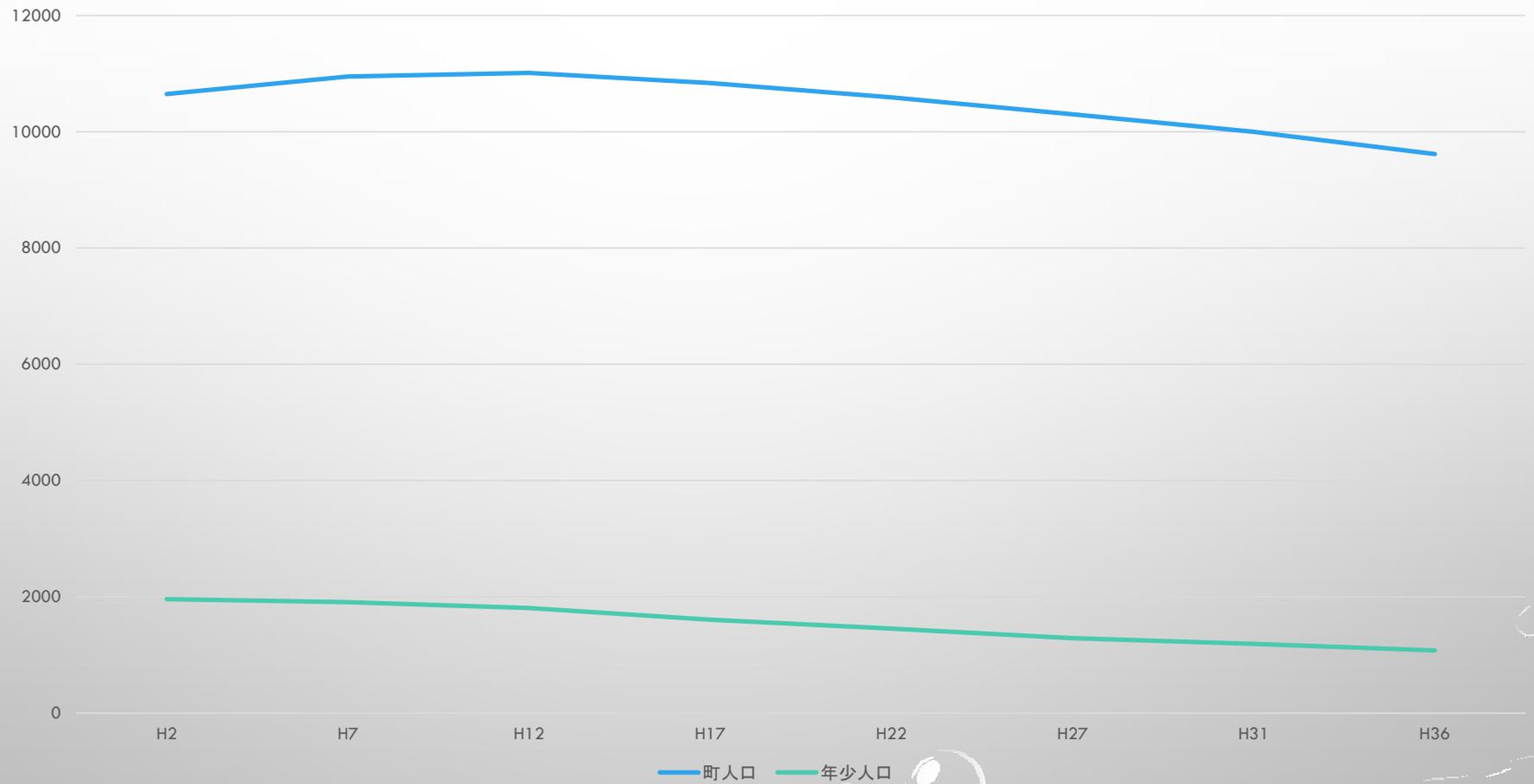
①少子化は川辺町でも進んでいます

人口	1990年(H 2)	10,650人
	2000年(H12)	11,013人
	2019年(H31)	9,999人

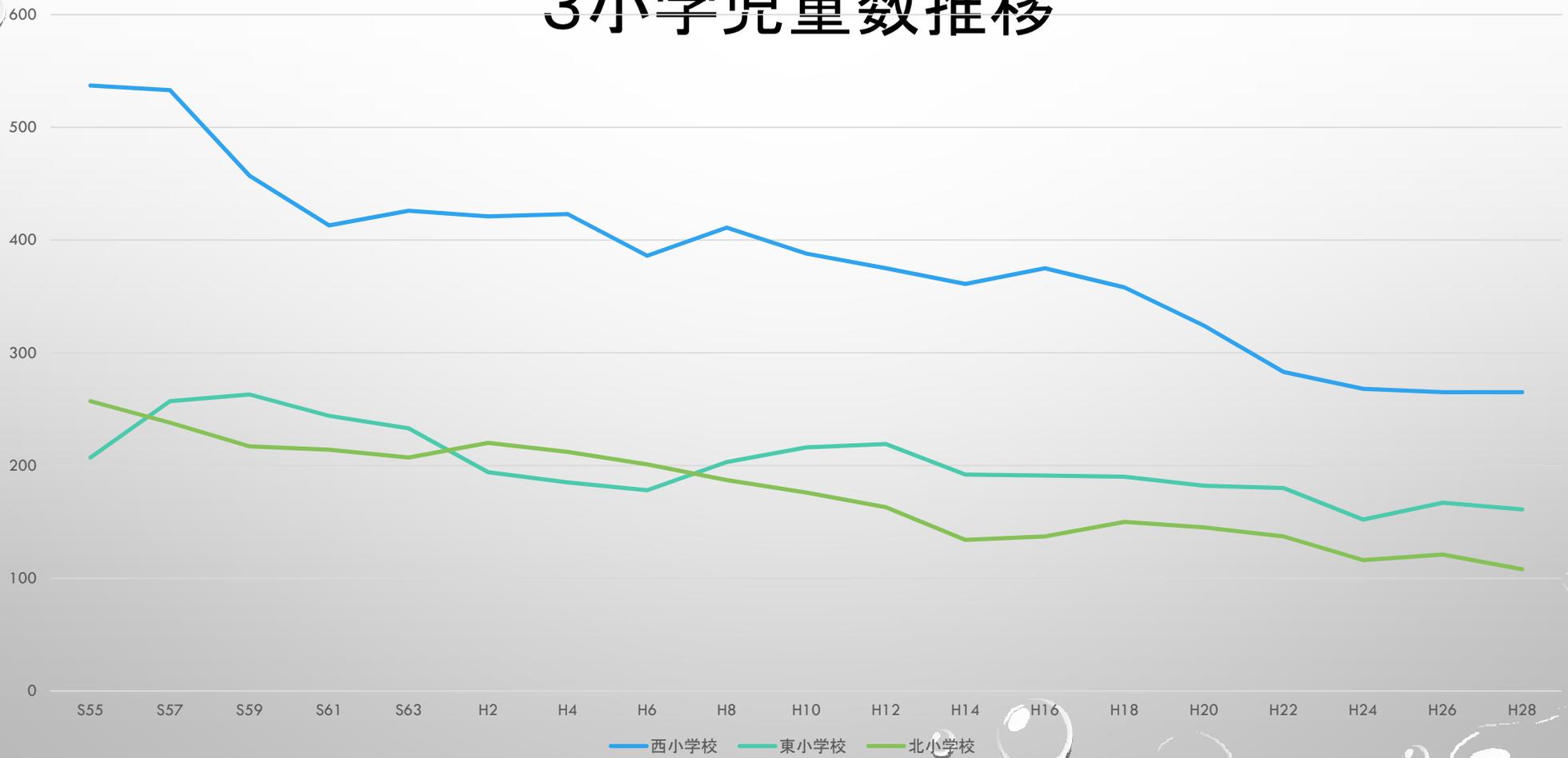
年少人口(0~14才)

	2000年(H12)	1,806人(16.4%)
	2019年(H31)	1,489人(11.9%)
	2024年(H36)	1,077人(11.2%)

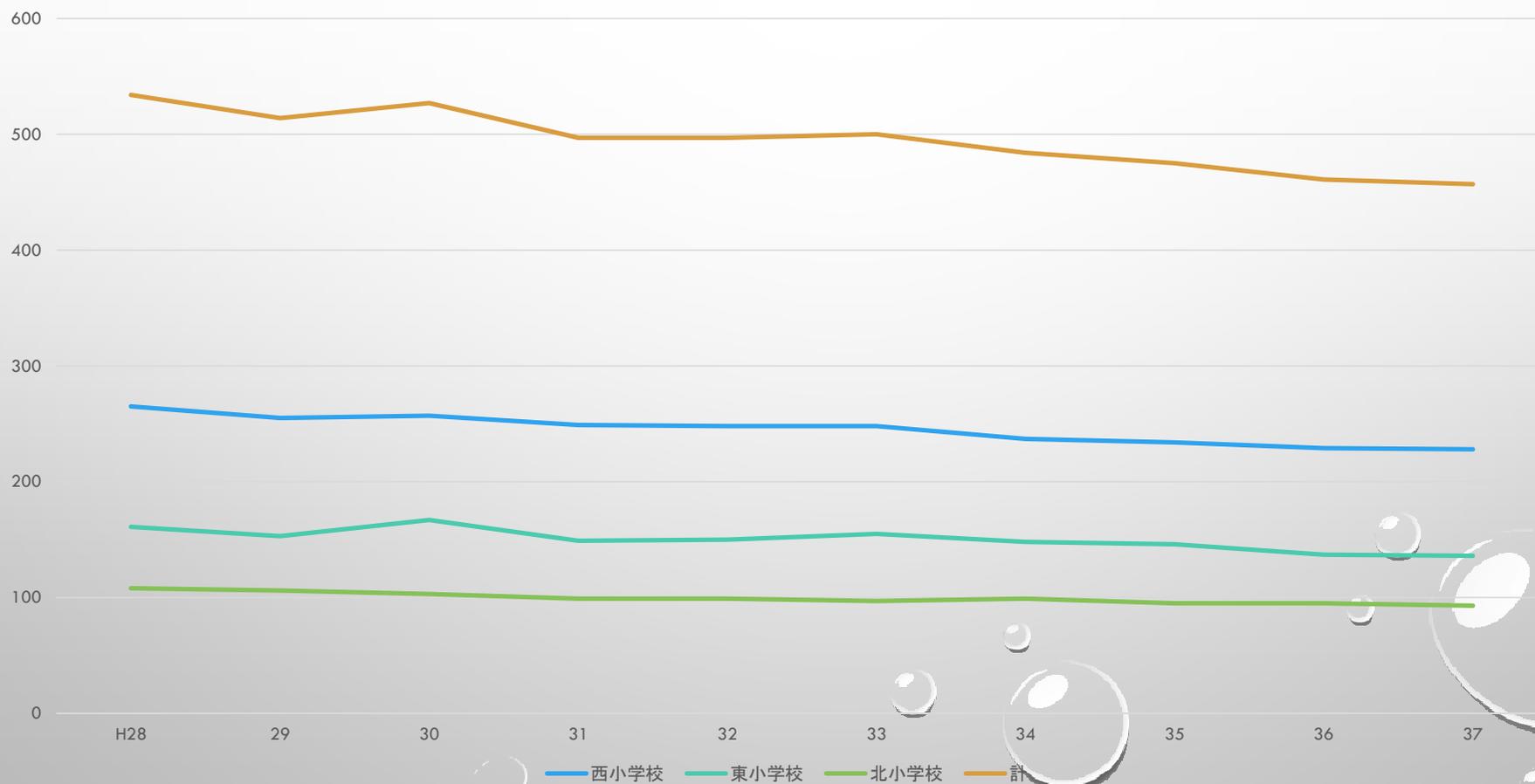
川辺町の人口推移と予測



3小学児童数推移



今後の児童数予測



将来構想を策定するのは

②学校教育の充実を図りたい

小1ギャップ(小1での集団生活や学習に慣れず落ち着かない)

中1プロブレム(いじめ、暴力、不登校が増える)解消

グローバル化への対応(英語、国際交流、プログラミング)

ふるさと教育の充実

特色ある教育推進

将来構想を策定するのは

③西小建設後 49年経過しています

昭和42年7月建設

昭和63年大改修 平成19年耐震補強

平成26年空調設備工事

平成27年非構造部材耐震補強工事

RC構造物の寿命60～70年がめど

10～20年先には建て替えが迫る

将来構想を策定するのは

④財政の厳しさが続くこともあります

公共施設やインフラの改修・強化

学校管理運営面での配慮や検討

* 学年単学級校舎 約12～16億円

学年複数学級校舎 約18～22億円

平成29年度3小学校学級編制状況

	西小		東小		北小		1校と したら	
	児童 数	通常学 級数	児童 数	通常 学級数	児童 数	通常 学級数	児童数	通常学級 数
1年	40	2	20	1	20	1	80	3
2年	49	2	30	1	13	1	92	3
3年	43	2	21	1	19	1	83	3
4年	43	2	25	1	19	1	87	3
5年	42	2	38	1	18	1	98	3
6年	38	1	15	1	17	1	70	2
計	255	11	149	6	106	6	510	17

今後の児童数の予測

		H27	H29	H37	H42	H42学級平均児童数
西小	児童数	257	255	226	204	
	学級数	10	10	8	6	34
東小	児童数	165	149	134	118	
	学級数	7	6	6	6	19
北小	児童数	120	106	91	88	
	学級数	6	6	6	6	14

公立小中学校規模の標準や基準等

- (1) 学級数がおおむね12学級から18学級であること。
- (2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね4km以内、中学校にあってはおおむね6km以内であること。

学校規模適正化に関する基本的な考え方

H27文部科学省

集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い

思考力や判断力や問題解決力などを育み

社会性や規範意識を身に付けさせること

経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員集団

の配置面から、一定の学校規模確保が重要

公立小中学校の標準や基準等

H27文部科学省

- ・小中学校は子どもたちの教育施設
 - ＋ 地域コミュニティの核
- ・防災・保育・地域交流・絆づくりの機能
- ・まちづくりと密接不可分

望ましい学級数の考え方

H27文部科学省

- ・小学校では複式学級を解消するために
少なくとも1学年1学級以上が必要
- ・全学年でのクラス替え、学級を超えた学習集団
→ 1学年2学級以上が望ましい

学年単学級と複数学級の良さと課題1

<生徒指導・仲間関係面>

単学級 ・性格や学習状況など互いを知り尽くしている

- ・仲間関係が固定化される傾向
- ・仲間関係にひびが入ると修復が難しい
- ・集団としての逃げ場がなく心の傷を持って進級も
- ・年度によっては男女の割合が変化

複数学級・多くの仲間と交流や刺激を受けて生活

- ・社会性の芽が伸びていく
- ・クラス替えへの期待は大
- ・新しい集団で生活学習リセット可能

学年単学級と複数学級の良さと課題2

＜生徒指導・仲間関係面＞

- 複数学級
- ・友人関係の広がり 多様な個性とのふれ合い
 - ・見方や考え方、生き方などの啓発
 - ・興味、関心、趣味等で気の合う仲間の発見
 - ・学級意識や学級所属意識の高まり
 - ・学年間の活動や交流の幅が広がる
 - ・学級間における適度な競争意識の醸成 意欲向上
 - ・クラス替えやある程度の人数における切磋琢磨
 - ・中学校入学における環境変化に順_応

学年単学級と複数学級の良さと課題3

＜教育活動面＞

- ①単学級
 - ・ 担任は一人一人の学習状況を把握
 - ・ つまずきへの対応や個に応じた支援
 - ・ 全校少人数、全校教職員で子どもを見守り・支援
 - ・ きめ細かな指導ができる

- 複数学級
 - ・ 自ら課題を見つけ、仲間と解決する「協働学習」のため学級にある程度的人数在籍が効果発揮
 - ・ 国語における「作文」「詩」「俳句」、図工の作品など鑑賞から学び合う面で効果大
 - ・ デイベートによる討議、討論における活発な交流

学年単学級と複数学級の良さと課題4

<教育活動面>

複数学級・総合的な学習における課題別活動、人数が多いほど
テーマの広がり、追究の深まり期待大

- ・体育の授業における集団競技、正式人数チーム編成
- ・音楽での「合唱」「合奏」、質と表現力の向上
- ・「学年」と「学級」の2つの組織集団の体験
- ・運動会や音楽会における、競争意識や所属意識の高まり
「力」や「情操」の醸成

学年単学級と複数学級の良さと課題5

<学校運営面>

- 複数学級
- ・規模の大小を問わず、校内運営組織や校務分掌に大きな差は無し
 - ・規模が大きいほど教職員配置は増える
一人あたりの分担は軽減傾向
児童に着く時間は多く確保
 - ・同じ学年を複数で担任する
中堅と若手の組み合わせにより指導力向上

中1ギャップ解消・特色ある教育活動を推進するための体制

① 小中一貫教育

小学校と中学校の教育課程を一貫して行う

63制を自由に編制可能

小学校で教科担任制拡大が可能

校長は基本的に 小に1人 中に1人

中1ギャップ解消・特色ある教育活動を 推進するための体制

義務教育学校

63制を自由に編制

教育課程の編制をより自由に編制

特色が一層出せる

校長は1人

特色ある学校経営を一層進めるためには

小中一貫教育・義務教育学校

- ① ふるさと教育の充実
- ② 英語活動→英語教育から海外研修へ
- ③ すべてがユネスコスクールに
- ④ 職場体験トライアルウィークの実施

様々なケースと比較

	3小のまま	3→2→1校	3→1校
適正規模	△1学級10人↓	△学年複数学級↓	○学年2～3学級
特色ある活動	○規模にあった活動	○それぞれに推進	○一層の推進
学校管理	△3校分管理費	○3校時よりは減	○1校分管理費
教育振興	○規模にあった教育	○規模にあった教育	○中規模の教育振興
小中一貫	△一部の一貫的教育	△一部の一貫的教育	○1小1中一貫教育
財政	△3校分の修繕更新	△スクールバス等	△スクールバス等
コミュニティ	○それぞれ地域の中心	△地域の中心減少	△2地域減少

仮に再編統合を仮定した児童数・学級数

		H27	H37	H42
西小	児童数	257	226	
	学級数	10	8	
東小	児童数	165		410
	学級数	7	225	12
北小	児童数	120	8	
	学級数	6		

再編統合後の廃校活用例

美濃市	上牧小	増改築	特別養護老人ホーム
前橋市	嶺小	改修	英語村
新潟	亀代中	改築	サッカートレーナー学校
岐阜	芥見小	改修	岐阜市教育研究所
山口	沖裏東小	増改築	看護師養成学校
徳島	福原小	改修	賃貸事務所・町営住宅
大分	川原小	改築	道の駅

将来構想について出されている意見1

- ・ 学年1学級、学年複数学級のメリット・デメリットは分かった
- ・ 子どものためには、専門（教科等）の先生が多い方がよい
- ・ 小規模校のアットホーム的な教育も捨てがたいが、トラブルが起こると卒業まで引きずることは問題
- ・ 少人数だからきめ細かい指導ができるとは言えない
- ・ それぞれの小学校が特色ある教育を進めている それぞれに良さはある
- ・ 将来を展望すれば人口減少と財政低下は避けて通れない
- ・ 同様に西小の建て替えも考えて行かねばならない
- ・ 鉄筋コンクリート造でも対応する法によっては耐用年数は異なる 西小は60年過ぎても使用は可能である
- ・ 子どもには「深い」「広い」つながりや、多くの経験が必要
- ・ 町の将来教育構想（めざす教育）をはっきりしておく
- ・ プロセスを大切にしてい見をまとめていく
- ・ 川辺はコンパクトにまとめられる町 良さを活かしていく
- ・ 子育て世代を中心に広く町民の声を聞いてほしい
- ・ 財政や西小の建て替えの前に「子ども」第一で考えていきたい

将来構想について出されている意見2

- ・ 今後の児童数の減少の様子は理解できた
- ・ 子どもの数が極めて少なくなってから対応を考えるより今のうちから考えておくのは大切
- ・ 10年後でも北小、東小は複式学級になることはない 今のままでも良いのでは
- ・ 国は少人数学級を進めている 1学級15人～20人は理想的ではないか
- ・ 体育ではレギュラーの人数で学ばせてやりたい
- ・ 音楽も西小くらいの児童数で合唱や合奏を発表してほしい
- ・ こども園から6年生まで少人数の子としか関わり合いを持ってないのは良くない
- ・ 子どもは多くの仲間と関わっていくことで成長する
- ・ 統合校でより一貫的な教育環境が望ましい
- ・ 中学校に入学して不適應を起こすことを防ぐには統合は賛成
- ・ 1校は理想だが段階的に統合してもらえるとうれしい
- ・ 通学に時間がかかるので通学バス等交通手段をお願いしたい
- ・ 少子化を考えると同様に過疎化対策を考えてほしい
- ・ 高齢者や子どもへの対応を考えるならば、働き世代への対応や策を町として考えてほしい
- ・ 統合を考える前に、町内に子どもが遊べる公園を増やしてほしい

川辺町の教育がめざすもの

「わたしがすき」「家族がすき」「仲間がすき」
そして「このまちがすき」

自尊感情を高め おもいやりの心を育みながら
たくましく生きるこどもを育てたい

ふるさとをよりどころに

日本で 世界で 自らを輝かせて生きる 人を育てたい